

新たなスポーツ推進計画 今後の課題

部活と指導者の問題について

部活（スポーツ少年団）の現状

- ◆ 少子化により、単独では1チームが成立しない場合など、運営が難しい場合がある。
- ◆ 教員が指導者となる場合が多く、教員の多忙化の一因となっている。
- ◆ 教員が指導者の場合、異動により指導者に欠く場合がある。



想定される対応

外部指導者の活用

- 他団体から指導者を派遣してもらうなど

PTAや地域住民の協力

- PTA、地域住民が協力して指導を行うなど

クラブチーム化

- 学校とは切離し、クラブチームとして活動する

複数の学校（少年団）が統合して実施

- 同じ中学校区など、近隣の学校で統合して実施

- 外部に指導者を求める場合でも、年間を通じた継続的な指導を求める声があるが、外部指導者も仕事や学校がある場合は対応できるとは限らない
- PTA、地域住民が指導者を担えるとは限らない
- クラブチームの場合、専任の指導者を雇うことで費用負担が大きくなる可能性がある
- 教員が指導する場合、異動と多忙化の問題の完全な解決とはならない

学校や地域で活動できる指導者が足りない！

市のスポーツ施設のあり方検討について

市全体のスポーツ施設のあり方について検討するもの。

👉 あり方とは

- ✓ 市の全てのスポーツ施設が、今後どうあるべきかの方向性。
- ✓ 個別施設の新設、建替えのみならず、既存施設の統廃合（県の施設等、同じ機能を有する施設での代替）も含めてどうあるべきか。

👉 ポイント

- ✓ 「この施設が古くなったから新しくする」「特定競技の施設が無いから（不足するから）作る」という、個別施設の対応ありきの発想から入らない。
- ✓ 市のスポーツ振興の将来的な展望を持ちながらも、財源不足、高齢化、人口減少等の現実的な問題も踏まえる。

👉 検討に必要な要素

1. あり方を検討する上での「価値」（検討過程で判断の基準となるもの 例：競技力向上）
2. あり方を検討する上での手順（何を調べて、どのように検討するか）
3. 検討のための情報

【参考】市内に所在する主なスポーツ施設

浜田夜間スポーツ広場(学校校庭)	沖館川多目的遊水地(リバーランドおきだて)
青森市スポーツ広場	多目的広場
野球場 3面	テニスコート3面
サッカー場 1面	陸上トラック
ラグビー場 1面	ゲートボール場4面
多目的グラウンド 1面	青森市西部工業団地多目的施設(三内丸山アリーナ)
テニスコート 12面	多目的ホール
瀬戸子グラウンド	テニスコート
浪岡総合公園及び浪岡総合公園施設	泉川夜間スポーツ広場(学校校庭)
野球場	大野夜間スポーツ広場(学校校庭)
陸上競技場	青森市森の広場(多目的広場、ゲートボール場3面)
庭球場	青森市はまなす会館(体育館)
相撲場	
青森市浪岡体育館(ランニングルート、卓球場、武道館含む)	青森県総合運動公園
カクヒログループスタジアム(青森市民体育館)	陸上競技場 ※新青森県総合運動公園へ移転予定
青森市営庭球場 4面	補助競技場
青森市営野球場	野球場 ※新青森県総合運動公園へ移転予定
みちぎんどリームスタジアム(青森市スポーツ会館)	水泳場
屋内グラウンド	ジョギングコース
レスリング場 1面	新青森県総合運動公園
多目的運動場	アリーナ
柔道場	テニスコート
剣道場	アーチェリー場
弓道場	球技場
多目的広場(サッカー・ラグビー)	ジョギングコース
青森市屋内グラウンド(サンドーム)ジョギングコース含む	
青森市民室内プール	
青森勤労者プール	

大会への選手派遣補助の現状

スポーツへの関心を高める効果が見込まれる大会に限定しているため、種目の範囲が狭い。
義務教育ではないが、同じ学校体育の枠で見た場合、中学生と差が大きい。

**義務教育以外
(市教委所管外)**

高校生

- 対象：「全国高等学校野球選手権大会」
「選抜高等学校野球大会」
「全国高等学校サッカー選手権大会」
「全国高等学校ラグビーフットボール大会」
「全国高等学校駅伝競走大会」
- ※種目限定
- 補助金額：各40万円（駅伝は男女各20万円）
- 【一般財源対応】総額制限あり

中学校体育大会以外に出場する場合は、適用されない。

**義務教育
(市教委所管)**

中学生

- 対象：東北及び全国中学校体育大会
- ※種目限定なし
- 補助金額：開催地までの往復旅費（上限あり）
- 【基金対応】総額制限なし

左記以外の大会
補助なし

- ✓ 一般、小学生、大学生は適用なし
- ✓ 世界大会は適用なし

学校体育

社会体育